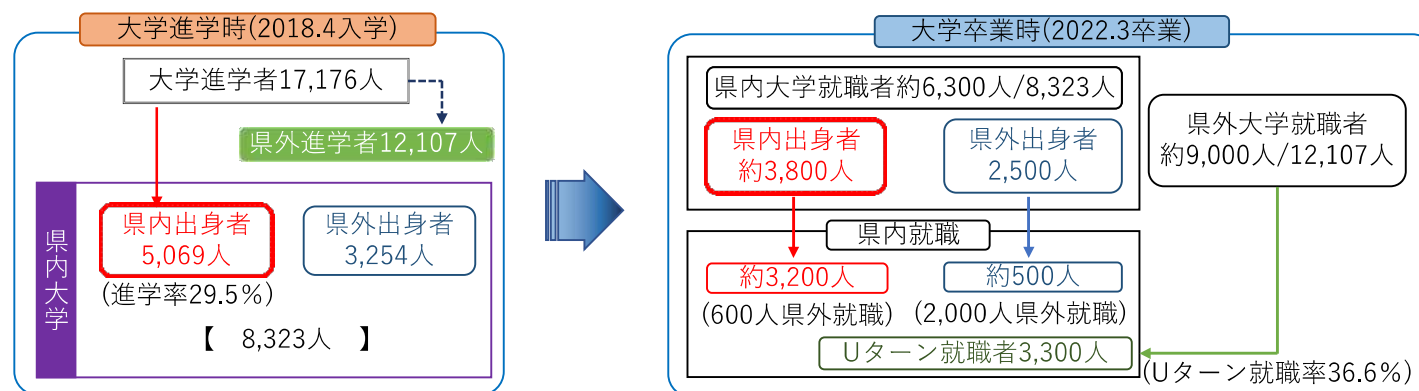


背景・課題

- 大学進学時における県内進学率は29.5%(5,069人)と低く、若者層の転出超過の主因となっている。
- 県内大学の県内出身者の県内就職率は84.2%(約3,200人)であり、また、県内大学の県外出身者のうち、80%(2,000人)が県外へ就職している。
- 県内出身者の県外大学進学者のうち、県内へのUターン就職率は36.6%である。



参考：「しずおか産学就職連絡会」調査

事業の方向性

県内大学生の県内就職率の向上や、本県産業の人材を確保するため、大学在籍時における**地元企業や産業に対する理解を深めるキャリア教育を推進**する。

【大学生等県内定着促進事業】 R5新規事業/6,000千円

事業の柱	内容
県内就職を考える機会の創出	産学官が一堂に会し、県内定着に向けた大学生等のキャリア教育における在り方を検討する場となる『 キャリア教育検討会議 』を設置
県内大学による取組強化	県内大学等が行う県内定着促進に向けた取組への支援
県内産業の理解促進	企業体験型授業（短期集中単位互換授業）の開設

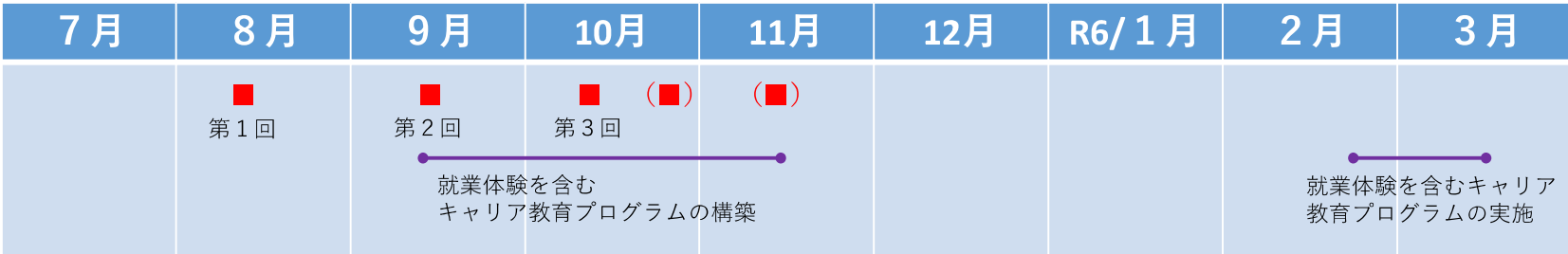
キャリア教育検討会議の設置

目的

主に大学生低学年次のキャリア教育に係る現状及び課題を共有し、今後の在り方について検討する。

R5活動計画

- ・検討会議において、大学生等の県内定着に向けた現状及び課題の整理⇒産学官で共通認識化
- ・就業体験を含むキャリア教育プログラムの構築に向けた協議⇒春期休業中の実施を目指す。
- ・その他、県内定着に向け必要となる取組についての検討⇒R6移行の事業化を検討

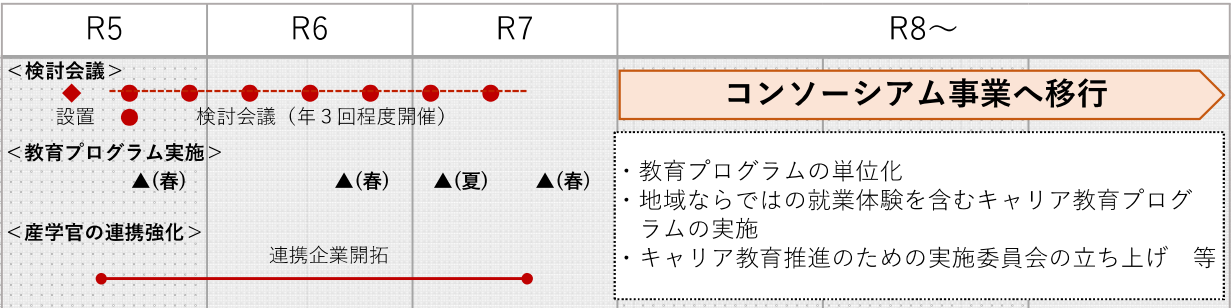


回次	検討内容
第1回	・本県における大学生等の県内定着に向けた現状と課題
第2回	・今後必要となるキャリア教育における取組 ・就業体験を含むキャリア教育プログラム構築に向けた基本方針
第3回	・就業体験を含むキャリア教育プログラムの決定 ・今後の事業の展開について

※議論の展開によっては第4回以降の開催の可能性有

今後の展開

- ・県内大学生の県内定着に関し、産学官全体での共通認識を形成し、協力体制の強化を図る。
- ・県内大学や企業への横展開を見据え、コンソーシアム内事業実施委員会へ移行する。
- ・検討会議において構築した就業体験を含むキャリア教育プログラムの単位化を含むパッケージを確立し、大学間での実用化を目指す。



【調査概要】

- ・調査機関：（公社）ふじのくに地域・大学コンソーシアム
- ・調査手法：調査票（電子データ）の送付 ・調査期間：令和5年6月1日～27日
- ・調査対象：県内高等教育機関のうち、社会人向け大学院大学等を除いた17機関
- ・回答数：17機関 ※本調査における低学年は、大学1・2年、短大1年、修士1年、高専4年を、高学年は、大学3・4年、短大2年、修士2年、高専5年を示す。

【結果概要】

- 内容や位置付けは各大学等により異なるものの、正課教育であるかを問わず、低学年を対象に将来のキャリアや就職を考えさせる取組を行っている大学等が多い。
- 一方で、取組への参加者は少なく、自身のキャリアに対する意識が希薄である低学年が多い。
- 「就業体験を含むキャリア教育プログラム」について、現時点では単位認定が難しいとする大学等が多く、今後の課題である。

【主な設問と結果（抜粋）】

<低学年を対象としたキャリア教育について>

①正課教育における活動・取組状況

- ・自分のキャリア形成を具体的に考え、職業興味や適性を含む自己分析等を学ぶ「キャリア形成論」を実施
- ・「キャリアデザイン」の科目を年次別に開講
- ・将来のキャリアを考える機会を創出する科目を開講
- ・県内事業所を招いた業界研究や社会人インタビュー等を行う科目を開講
- ・地域の中で将来どのような役割を果たしていけるかイメージする内容の科目を開講

②正規外教育における活動・取組状況

- ・2年次を対象とした、インターンシップ等の参加を促す講演
- ・市の補助金授業や商工会議所有志団体による学生と企業のワークショップ
- ・「低学年向けキャリア支援セミナー」の開催
- ・外部団体が開催する低学年向けイベントの紹介
- ・キャリアデザインがテーマの映像コンテンツの作成・提供

③課題に感じていること

- ・低学年の参加も認めているが、参加者が少ない。（4）
- ・取組内容の企画に苦慮している。（3）
- ・就職活動の早期化が煽られている。
- ・将来のありたい姿が明確であれば、低学年のうちから取り組むべきことを主体的に行えるが、そのプランニングができるほど、自己理解や仕事理解ができていない。

<就業体験を含むキャリア教育プログラムを実施した場合、現時点で単位認定を行うことは可能か>

対応可能⇒4校

現時点では困難⇒13校

- ・覚書締結した企業以外には単位認定していない。
- ・インターンシップ科目は3年生を対象としており、対象学年の拡大には学則変更と、教員の調整も必要。
- ・看護師保健師国家試験に対応した教育課程のため、どの授業科目に対応させるかの教育課程の検討が必要になる。

【調査概要】

- ・調査機関：（公社）ふじのくに地域・大学コンソーシアム ・調査手法：Google フォーム
- ・調査期間：令和5年6月1日～27日 ・調査対象：県内高等教育機関の学生
- ・回答者数：314人（低学年34人、高学年280人） ※低学年：大学1・2年、短大1年、修士1年、高専4年 高学年：大学3・4年、短大2年、修士2年、高専5年

【結果概要】

- 企業がタイプ1（オープンカンパニー）や2（キャリア教育）を実施した場合、低学年においては「具体的な実務体験」又は「就活に役立つ内容」を含む内容を、高学年においては「具体的な実務体験」に加え「企業と直接話せる機会」を含む内容であれば参加したいと回答する学生が多かった。
- 期待するインターンシップやキャリア教育について、低学年においては具体的な記述が少なく、認識が乏しい状況であることが推測される。一方で、高学年においては、「具体的な実務体験」の他に「就活に役立つ内容」と回答する学生も多く、自身の経験も踏まえて、就活に関してより具体的な内容を期待する意見が見られた。
- 「『単位が付与されれば』参加したい」と回答する学生が圧倒的に多く、単位取得を重視する傾向が見られる。

【主な設問と結果（抜粋）】

<低学年>

- タイプ1（オープンカンパニー）や2（キャリア教育）を企業が実施した場合、参加したいと思う内容**
 - ・具体的な実務体験（4）
 - ・就活に役立つ内容（マナー、知識等）（4）
 - ・企業と直接話せる機会（質問ができる）（4）
 - ・企業説明（特色）
 - ・社内の雰囲気を知れるような内容
- 含まれていたら嬉しいと思うインターンシップやキャリア教育**
 - ・具体的な実務体験（3）
 - ・就活に役立つ内容（社会人として必要なスキルや能力等）
 - ・実際に働く現場の人の雰囲気がわかる
 - ・少し給料がもらえる
 - ・会社員の方と話せる機会
- タイプ1（オープンカンパニー）や2（キャリア教育）を企業が実施した場合参加したいか**



<高学年>

- 低学年を振り返って、タイプ1（オープンカンパニー）や2（キャリア教育）を企業が実施した場合、参加したいと思う内容**
 - ・具体的な実務体験（11）
 - ・就活に役立つ内容（社会人の心構え等）（5）
 - ・企業と直接話せる機会（社員からのアドバイス、満足度把握等）（7）
 - ・企業説明（部署の役割、業務内容等）（5）
 - ・自分の興味のある分野や学んでいる学問に関連がある内容（7）
- 含まれていたら嬉しいと思うインターンシップやキャリア教育**
 - ・具体的な実務体験（10）
 - ・就活に役立つ内容（就活や面接等における重要点等）（7）
 - ・企業の業務内容や勤務風景について知ることができる（6）
 - ・自分の興味のある分野や目指している業種に関連する内容（6）
 - ・気軽に参加できる内容（5） ・話だけでなく体験型、実践型の内容（4）
- 低学年を振り返って、タイプ1（オープンカンパニー）や2（キャリア教育）を企業が実施した場合参加したいか**

